

ラクダライドにおける問題行動とその修正の一例

よこはま動物園 ○土田 真一、菊池 博、鈴木義明、高橋 亨祐

よこはま動物園で2013年4月に開始したラクダライドは毎日有料で実施しており、今年で6年目を迎えた。ラクダに乗りその大きさや特有の揺れ、温かさを体験できるため人気である。今回はライドに関する問題行動とその修正についての一例を報告する。

使用個体はヒトコブラクダ (*Camelus dromedarius*) のピノ (♀、2010年1月生まれ) である。ピノは2013年3月に来園しトレーニングを2年半の間行い、2015年9月にライドデビューをした。その後、多少問題行動はあったが徐々にライドは安定してきた。しかし、2017年12月からライド準備中の鞍着脱時に暴れる逃避行動や鞍自体を拒否する回避行動がみられた。これらの行動は3か月間で21回(12月：8回、1月：4回、2月：6回、3月3回)となり、非常に高い頻度であった。そして、2018年3月4日には鞍装着時に走り出す非常に強い逃避行動がみられた。

そのため翌日からラクダライドを中止し、鞍着脱時の行動の修正を始めた。事前にライド場に設置している監視カメラで録画した動画を参考に問題行動を班内で共有した。また、修正手順を検討し、修正は細かく行う必要があると考え、最初は鞍の下に付ける布に慣らすトレーニングを最初からやり直した。一つの事ができたら報酬を与え強化し、鞍着けやライドが良い時間であることを再認識させた。しかし、この期間中にも暴れる事もあり、その時の個体の状況によって修正内容を検討する必要があった。鞍を付け、人が乗っても問題が起こらなくなるまで8週間の時間を要したのち、ライドの実施概要についても再考しラクダライド再開に至った。

鞍付けを嫌がっていたのを強いて行い続けたため、問題行動が増幅してしまったとも考えられる。その都度、慎重に行動の修正をしていれば、長期のライド中止は避けられたかもしれない。ラクダライドは利用者とハンドラーの安全性を確保し実施する必要があり、今後も問題行動の解析とその修正を常に行う必要を実感した。また、これらの修正手順の構築は私達自身が非常に学ぶことが多く、今後様々な動物のトレーニングに活かしていきたい。